

〈特集〉 東南アジアの世界像

編者のことば

土 屋 健 治*

本特集号は、1983年3月12、13の両日、京都大学東南アジア研究センター社会科学系の主催で開催された「〈東南アジア的なもの〉をめぐって」シンポジウムの成果である。これは、前年度に行われたシンポジウム「東南アジアの〈まち〉と〈むら〉」（このシンポジウムの成果は、矢野暢編「東南アジアにおける〈都市〉の諸様相」『東南アジア研究』21巻1号1983年6月、に収められている）に引きつづいて、東南アジア世界を成立させている内在的論理を探る趣旨から、各専門領域にわたる報告者の参加を得て行われたものであった。そのプログラムを以下に掲げる。

第1セッション 問題提起と総論

- I 東南アジア世界の〈かたち〉 土屋健治（京大）
- II 空間：マレー世界における〈小国〉と〈大国〉 坪内良博（京大）
- III 時間：タイ国の「近代化」と〈法〉 矢野 暢（京大）

第2セッション 象徴論

- I 象徴と社会 梶原景昭（阪大）
- II 空間象徴としての建築様式 野口英雄（明石高専）
- III アジア音楽の意味性 広瀬量平（京都芸大）

第3セッション 言語と意味

- I 東南アジア世界の意味性 岩田慶治（民博）

II 二重言語 幸節みゆき

III ベトナム社会主義言語 白石昌也（大阪外大）

第4セッション 歴史認識の枠組み

- I ジャワ年代記の歴史哲学 宮坂正昭（都立足立東高校）
- II ビルマ王朝年代記の歴史哲学 大野 徹（大阪外大）
- III タイ王朝年代記の歴史哲学 石井米雄（京大）

第5セッション アイデンティティの構造

- I スンダ世界のアイデンティティ 村井吉敬（上智大）
- II ミナンカバウの個人と社会 加藤 剛（京大）
- III 〈インドネシア〉とは何か 土屋健治（京大）

予定討論・総合討論

本号は、これらの研究報告のうち7編を選んで収めたものである。選択は、各セッションから一つないし二つの報告が掲載されるように配慮し、また、タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシアの各地域が論ぜられるように配慮した。

おのおののセッションのサブ・タイトルが示している通り、〈東南アジア的なもの〉を探ることは、この地域を一個の独自の世界として成立させているさまざまな要件を探ることにほかならない。換言すれば、そもそも、「東南アジア的世界」のかたちを描くことが

* 京都大学東南アジア研究センター

可能であろうか、もし可能ならば、それはどのような特性を示すものなのか、ということであり、この問いに対して一つの知的模索をこころみることが、シンポジウムにおける共通の問題関心であった。

しかし、いうまでもなく、これは描象度の高いレベルでの議論を必要とし、また、東南アジア以外の世界との比較をすることが要求される。したがって、さし当たりは、東南アジアのさまざまな地域（ユニット）の、さまざまな時代相において、人々がその世界をどのように了解しているのかという〈意味の構造〉を、できうる限り具体的に論ずる場を設定することが、先のシンポジウムのねらいであった。

本特集号はその成果の一端である。

ここにもられた各論稿は、それぞれの執筆者自身の関心に沿って展開され、その限りでおのおの完結した論稿である。それにもかかわらず、これらの論稿に共通に認められるのは、〈意味の構造〉という不可視の領域を取り扱いながら、それを、できうる限り歴史の具体的な場にひき寄せて論じていることである。それゆえに、おのおのの論稿が提示しているパラダイムは決して一様ではなく、場合によっては、パラダイム自体の非完結性ないしパラダイムの双極的性格が、〈東南アジア的なもの〉として提起されている。

いずれにしても、このような議論をつみ重ねていくことによって、東南アジア世界のかたちを描き出していくことが、われわれの課題である。

Images of the Southeast Asian World

Editor's Note

Kenji TSUCHIYA*

This special issue on images of the Southeast Asian World is the outcome of a collective effort by scholars on the question, "What is the Southeast Asian World?" A Symposium on this subject was hosted by the Social Science Section of the Center

for Southeast Asian Studies at Kyoto University on March 12th and 13th, 1983.** The agenda of the Symposium was as follows.

Session 1: Presentation

I The "Shape" of the Southeast Asian World. Kenji Tsuchiya (Kyoto University)

II Space: "Petty States" and "Great States" in the Malay World. Yoshihiro Tsubouchi (Kyoto University)

III Time: "Modernization" and "Law" in Thailand. Toru Yano (Kyoto University)

* The Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University

** This was the second symposium held at the initiative of the Social Science Section. The first symposium was held a year before on the question of the logical relationship between the concepts of "towns" and "villages" in Southeast Asia. The results were presented in a special issue of *Southeast Asian Studies*, Vol. 21, No. 1, 1983 edited by Toru Yano and titled "Patterns of Urban Formation in Southeast Asia."

Session 2: Symbols

I Symbols and Society. Kageaki Kajiwara (Osaka University)

II Symbolism in Hindu Architecture. Hideo Noguchi (Akashi Technological College)

III The Meanings of Asian Music. Ryohei Hirose (Kyoto City University of Arts)

Session 3: Languages and Meanings

I Meanings of the Southeast Asian World. Keiji Iwata (National Museum of Ethnology)

II Bilingualism in Singapore. Miyuki Kosetsu

III The Languages of Socialism in Vietnam. Masaya Shiraishi (Osaka University of Foreign Languages)

Session 4: Perceptions of History

I The Philosophy of History in the Javanese Chronicles *Babad Tanah Jawi*. Masaaki Miyasaka (Adachi Higashi High School, Tokyo)

II The Philosophy of History in the Burmese Chronicles. Toru Ohno (Osaka University of Foreign Languages)

III The Philosophy of History in the Thai Chronicles. Yoneo Ishii (Kyoto University)

Session 5: Structures of Identity

I Identity in the Sunda World.

Murai Yoshinori (Sophia University)

II Individual and Society in Minangkabau. Tsuyoshi Kato (Kyoto University)

III What is "Indonesia"? Kenji Tsuchiya (Kyoto University)

The seven pieces contained in this special issue were carefully selected from each session of the Symposium. The discussion covers Thailand, Singapore, Malaysia and Indonesia.

As seen in themes of each session, it is necessary to inquire into various aspects of "structures of meaning" or paradigms, in order to examine the question, "What is the Southeast Asian World?" In other words, the question is whether it is possible and, if so, how best to conceptualize the inherent nature of the Southeast Asian World. To examine and perhaps answer this highly conceptualized question, it is necessary to discuss first the paradigm of the World image found in particular areas and periods in Southeast Asia, as is shown in the articles in this issue.

The editor hopes that these articles will stimulate an interest in this subject in academic circles concerned with cultural patterns of Southeast Asian history and societies.